記者発表資料

平成２９年１２月７日
東北地方整備局
岩木川ダム統合管理事務所

かんがい用水補給効果に地元から驚きの声
～津軽ダムの効果を実感～

平成２９年４月から管理に移行した津軽ダムは、今夏の少雨によって渇水が心配された津軽平野の穀倉地帯に、かんがい用水を十分に補給しました。

これまで幾度となく行われてきた渇水時の番水制が今年は不要であったことが、地元の方々に驚きとともに喜びと安心感として受け止められ、津軽ダムの目的の一つである かんがい用水の補給効果 を実感いただけたものと考えています。

また、東北農政局発表の今年の作況指数は、津軽地方が東北の中でも数少ない「やや良」という評価となっており、これは日照や気温条件の影響が大きいものの、津軽ダムからの水量補給が「必要な時期に十分にできた」ことも一助となったものと思われます。

※詳細な内容については、別添の資料をご覧下さい。

≪発表記者会：弘前記者会、専門記者会≫

問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局　岩木川ダム統合管理事務所
（浅瀬石川ダム・津軽ダム）

〒036－１４２２　中津軽郡西目屋村居森平字寒沢１３８－２
電話：0172-85-３０３５　Fax：0172-85-3036

副所長（技術）　加藤（かとう）　孝（たかし）　（内線204）
管理課長　工藤（くどう）　忠行（ただゆき）　（内線331）

かんがい用水補給効果に地元から驚きの声　～津軽ダム～　①

岩木川ダム統合管理事務所

「地元の声」 用水路に、普通に水があるということの喜びと安心感

弘前市による聞き込みより

●西津軽土地改良区（増田理事長）（つがる市）

津軽ダム完成前までの目屋ダム運用時は、供給水の絶対量が少ないことから、恒常的な用水不足により、毎年土地改良区管内で番水制※を実施するほか、廻堰大溜池へポンプによる貯水をし、再利用する方法を交えて利水していました。これにより、毎日、維持管理に大変な労力と費用がかかっていましたが、ダム完成後は農業用水の安定供給が図られ、維持管理費も大幅に軽減されました。

私を含む組合員の方々が一番びっくりしたのは、長年にわたり続いていた番水体制が解消されたこと。７月下旬の出穂期に、必要な水が供給できたことへのおどろき。毎日、用水路に水が流れているという安心感。気温が下がった時には、生育に支障が出ないよう深水管理ができるのもダムがあればこそ出来た対応。

今年から、津軽ダムの本格運用が開始されましたが、これほどの効果があることに、皆、驚きとともにとても喜んでおります。

●青女子堰土地改良区（鳴海事務局長）（弘前市）

津軽ダム完成前は、２年に１度と高頻度で渇水に見舞われて、何度となく番水制を実施し、それでも用水が確保できない農家は、排水路の少量の水をポンプで汲みあげて使用していました。

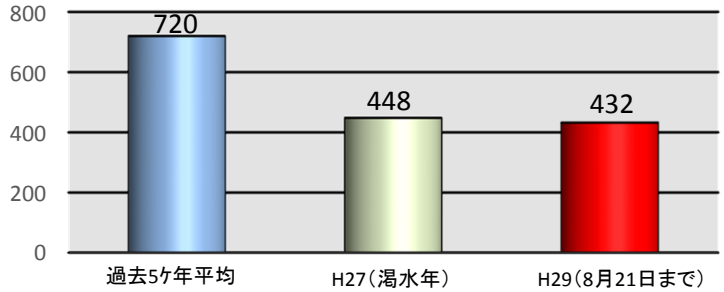
これまで夏場の渇水時は、組合員からの苦情等で頻繁に現場に出向き、説明等苦情処理に時間を費やし、心身ともに疲れ切っていましたが、ダム完成後は、職員の負担が軽減され、非常にありがたく思っています。

ダムが完成して初めての夏、極端に雨が少なく水不足を心配しましたが、ほとんど影響がなく、今年の雨量で大丈夫なのであれば今後は安泰だとの思いを抱きました。

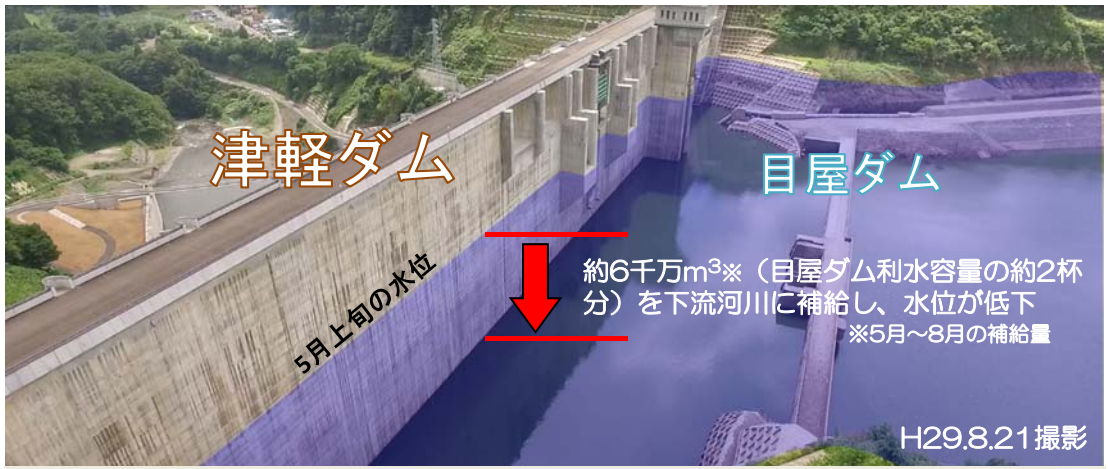
また、番水制の心配が無くなったことで、周囲の農家の方々も異口同音に「今後は水不足になることがない」ととても喜んでいます。津軽ダムが完成して、本当に良かったです。

※番水制：地区を分け、一定の時間毎に決められた順番で配水するなど、少ない水を平等に分配するための方法。

津軽ダム流域の降雨状況（５月～８月）



平成29年5月から8月までの総降水量は平年を下回り、8月21日までは渇水だった平成27年（448mm）とほぼ同じ降水量（432mm）でした。



下流河川への水量補給により、水位が低下した津軽ダム

かんがい用水補給効果に地元から驚きの声　～津軽ダム～　②

岩木川ダム統合管理事務所

平成29年の東北全体の作況指数は、東北全体では「平年並み」であるものの、日照不足や低温の影響で、太平洋側を中心に「やや不良」や「不良」が多くなっています。

青森県でも太平洋側で「やや不良」となっていますが、東北全体の中でも津軽・青森のみ「やや良」となっております。

日照・気温条件の影響が大きいと思われますが、深水管理など水が必要な時期に、必要な量を十分に津軽ダムで補給できたことも一助となったものと思われます。





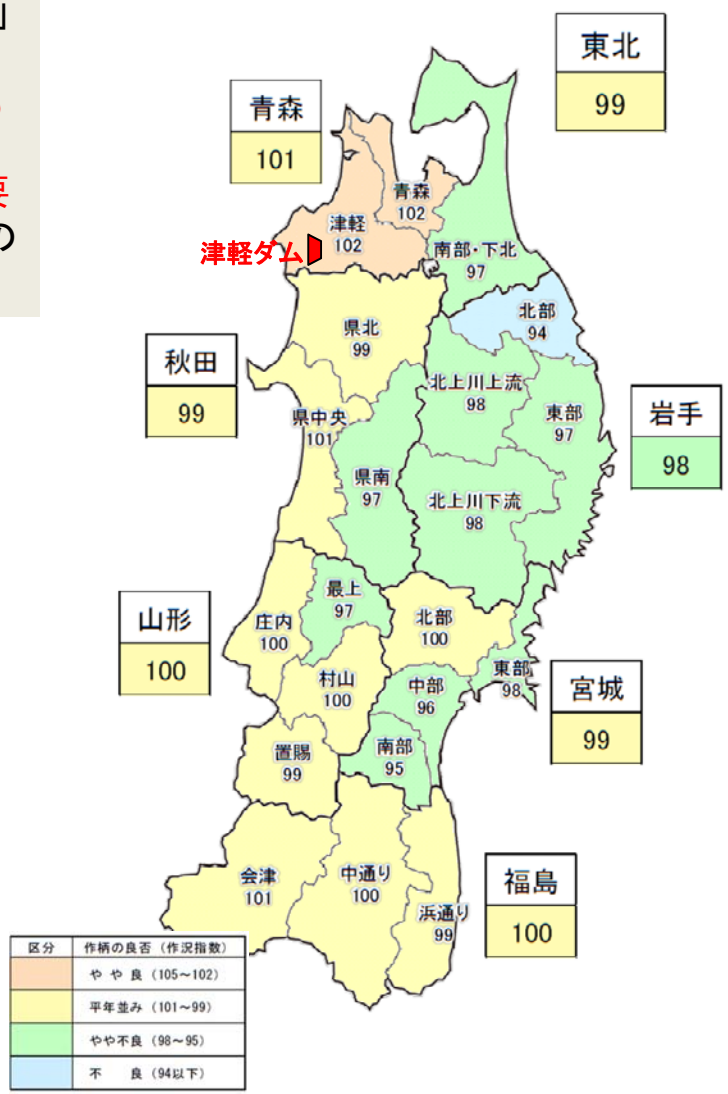
例年番水制を行うなど用水確保に苦労があった（写真は番水制の周知看板）





今年は津軽ダムから必要な水量を十分補給したことから用水確保が容易であった

県・作柄表示地帯別作況指数
【農家等が使用しているふるい目幅ベース】



注：作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（東北は1.85㎜）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

「平成29年産水稲の収穫量（東北）」（東北農政局 平成29年12月5日公表）による